

1 a 電化
b 個体
c 器官

2 I 一〇
II 次々
3 A な
B あ
C が

4 天そう (完答)
5 事故や災害
6 エ↓ア↓ウ↓イ (完答)

7 ーそう (完答)
8 与え
9 (記述題)
10 ウ

2 1 a 謝罪
b 許可
c 便乗

2 A アンカー
B ア
C 一目
D イ
3 エ

4 (記述題)
5 イ・カ (順不同・完答)
6 渋谷く写真
7 (記述題)

8 高城かれん (「高城」・「かれん」も可)
9 ウ
10 司

1 9 体に備わっている生きるために必要な力。
(同意可)

2 4 理由もなく人をいじめたことを反省し、転校先でやり直したため、立たないよう先にしめていたから。目
(同意可)

7 これまで自分たちのために一生懸命だった高城かれんがいじめっ子だったことが信じられず、また高城かれんと仲よくしたいがいじめを許すわけにもいかず、混乱してしまっている。
(同意可)

「配点」		
その	11	
他	913	
	22	
	41	
	72	
各	各	各
4	6	2
点	点	点
×	×	×
14	3	13
56	18	26
点	点	点

- 1 a 「電」はあめかんむりの下の部分がくずれないようにていねいに書こう。b 「個体」は「固体」としないように気を付けよう。c 「器官」は「気管」との取り違えがよくある語句である。とくに「官」を「管」としないように気を付けよう。
- 2 線①の問いかけの答えにあたる部分は、マラソンなどの陸上競技にたとえられた後にまとめられている。段落内の文の組み立てに気を付けて、字数が合わなければ同意の表現を探していこう。

- 3 A 「かなわない」は「勝てない」、「越えられない」ということである。B 「限りある」はそのまま「限り(限界)がある」ということである。C 「生きがい」は「生きるうえで目標になること」や「強い達成感を得られるものごと」という意味である。
- 4 ここでいう「自ら死ぬ」とは「短い命を生き抜く」ことである。決められた長さの命を最後まで生きることであるので「寿命」や「天寿」という語句と意味がなっていく。

- 5 ③の直前に「何千年も生き続ければ」とあるので、千年以上生きる間にどんなことがあるのかを探せばよい。千年以上生きる木については——線①の4行前や6行後に書かれていた。意味と場所の見当をつけて答えを探していこう。

- 6 並べ替えは前からではなく結びつきの強い選択肢を組にすることが大切である。組を作るときには接続詞や指示語、また用語のましまりに注目すると組が作りやすい。ここでは、アの「そこで」がエの「古いものは、新しい時代に合わないこと」があることに対して「生命は古いものを壊して、新しいものを作る仕組みを持つ」という対策をとったと考えられるのでエ↓アになる。また、ウの「つまり」はアの「古いものを壊して、新しいものを作る」ことを言いかえて「年老いた者は死に、新しく生まれた子どもたちが次の世代を生きる」と表しているのでエ↓ア↓ウと決まる。後はイが前か後ろかだが、イの「親と子」という語句はウの「子どもたち」や並べ替えの選択肢の後に続く「こうして親から子へ」の部分と「親」・「子」という用語でまとまるので最後となる。

- 7 線④の内容を受けて、次の段落では人と動物や植物とを対比させて「生きたくないなんて思っている生き物は一つもいません」と書かれているので、「判断を間違え」とは「生きたくない」と思うこと、つまり「『死にたい』と思う」ことだとわかる。

- 8 線⑤の問いかけがその次の段落の終わりにある「それが生物にとって『生きる』ということですよ」と対応していることに気づけば後はそれが指している内容をおさえればよい。

- 9 線⑥の次の部分に「それこそが雑草が感じている『生きる力』」であろうと書かれているので、本文中で「生きる力」についてどう書かれていたかをたどればよい。——線④の前の段落に「生きるために必要な力は、ちゃんと体に備わっています」とあるのでここを利用する。

- 10 ⑦の次の文に「生まれたことにそんな意味を見出せたとしたら、それはとてもすごいことなのです」とあることから、生きることに「うれしいことや楽しいこと」があることを筆者はよいことだととらえていることがわかる。アやイでは皮肉めいた意味あいが出てしまうし、エでは行いがよいことかどうかまではわからない。

2

- 1 a 「謝」は中の部分がつぶれないようにはっきり書こう。b 「許」はつくりを「牛」にしてはいけない。c の「便」はつくりの「更」の上をつき出したり、下を「人」のようにしてはいけない。細部まで気を付けよう。

- 2 A リレーの最終走者を「アンカー」という。ここでの第四走者が最終走者かどうかは高城かれんがそのままゴールしたことからわかるだろう。B 「呆気にとられる」は文字通り「呆然(ぼうぜん)としてしまう」ということである。C 「一目置く」は「相手を自分よりも優れた人として認める」ということ。D 「湯気が出るほど(怒る)」は強い怒りを表す比喩である。

- 3 不適当なものを選ぶことに注意しよう。「手を口に当てて」いるのは驚きを、「泣いている」表情は他の子たちと同じような感動や喜びを表していると考えられる。直後に職員室に抗議に行ったことから、エの「不信感」は誤りといえる。

- 4 線②の直後で僕が高城かれんの気持ちを推測しているが、これでは問いにあるような「結局何のためか」の説明にはならない。高城かれんがどういう思いで今までいたのかはこの後の渋谷亜矢とのやり取りでの告白やその後の磯憲の言葉から推測できる。

- 5 誰が誰にや、いじているのかいじめられているのかを冷静に見分けていこう。本文中では渋谷亜矢がいじているのはアクセサリを使って意地悪されている高城かれんである。また、高城かれん自身から前の学校ではいじめっ子であったことが語られていた。

- 6 線Dの3行後で渋谷亜矢が自ら開いた写真のことである。

- 7 とてもその場にはいられなかったのである。高城かれんがいじめられているところで自分のことのように泣いたり怒ったりする村田花の様子から高城かれんを親友であると思っていたであろうことがわかる。その高城かれんが以前はいじめっ子であったことを知った驚きは、それまで一生懸命協力してくれたこともあいまって強くなるだろうし、同時に親友でいたいという思いといじめっ子は許せないという思いとの板ばさみになってしまったであろうと考えられる。入り組んだ心情は一つずつはつきりさせよう。

- 8 渋谷亜矢とのやり取りでもあったように、僕たちはいじめに対して強い嫌悪感を抱いている。また、——線⑤の3行前から悠太との会話までの部分でも僕はもし高城かれんがいじめっ子だったら許せないと言っていたことから、ここで敵にあたるのは高城かれんであろう。

- 9 運動会の場面とアクセサリが壊される場面である。通読しながら場面分けをする癖をつけておこう。

- 10 9と同じく物語中に出てきた名前が誰のことを指しているのかは通読中に確認したい。人物名は読みとばさないように気を付けよう。
以上